

## 1 学校教育目標

かんがえる子 がんばる子 やさしい子 げんきな子

## 2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	○「通いたい学校」「通わせたい学校」「勤めたい学校」 ・児童が安心・安全に過ごすことができ、「できた・分かった」を体感できる学校 ・開かれた学校を推進し、保護者・地域が児童の健やかなる成長を実感できる学校 ・教職員が協働し支え合い、児童の笑顔から活力をもらえる学校
○児童・生徒像	・かんがえる子：学び方を身に付け、自分の考えを表現できる子 ・がんばる子：自分に自信をもち、より高い目標に向かって努力を続ける子 ・やさしい子：自分のよさと友達のよさに気付き、互いを認め合う子 ・げんきな子：心身の健康に気を付け、進んで運動に取り組み、安全に心がけて生活できる子
○教師像	○常に向上心をもち、児童と一緒に伸びようと努力する教師 ・教材研究と授業改善に努め、児童に成就感と達成感を与えられる教師 ・優しさ、温かさ、厳しさをもって指導し、児童が「愛されている」と実感させられる教師

## 3 学校の現状及び前年度の成果と課題

### 【学校の現状】

#### ○児童について

明るく素直な子供たちが育っており、本校をよりよい学校にしようと、高学年を中心として頑張っている。目標を提示すると、それに向かって努力する児童である。長なわや短なわ、マラソンなど、季節に合わせた運動を行い、体力づくりにも積極的に取り組んでいる。挨拶では、立ち止まり挨拶や語先後礼、靴箱の靴揃えが定着しており、礼儀正しさも感じられる。

#### ○教職員について

まとまりのある教職員集団であり、「チーム栗北」として機能している。特に学年内の連携がよく、教材研究や教材作成を協力して行ったり、掲示物を同一にしたりして、同調した指導を行っている。他校の経験があり長く本校に在籍している教員はいなくなり、若手教員が多くなった。経験は浅いが、大変よく教材研究を重ねている。タブレット端末が導入されてからは、若手教員がICT教育を支えている。

#### ○保護者・地域について

両者とも、学校教育に対し非常に協力的である。様々な場面でボランティアとして学校を支援してくれている。コミュニティ・スクールとして学校運営にも参画してもらっており、地域の熱い思いが伝わってくる。学校・保護者・地域が「チーム栗北」として、同じベクトルで子供の健全育成に取り組むことができる。

### 【前年度の成果と課題】

○学力の向上 区学力調査の目標通過率は、2教科平均81.4%で達成基準を上回ったが、まだ十分とは言えない。新型コロナウイルス感染症予防のため計画通りに進めることができず、補充等の基礎学力習得の取り組みができなかった。授業力向上に向けた取り組みは十分に行うことができた。

○豊かな心の育成

令和3年度より始めた読書マラソンを今年度も継続して行う。自己肯定感や思いやりの育成は目標を達成することができた。4年度はウイズコロナで体験的な学習を多く取り入れ、情操教育に努めていく。

○健康・体力の保持増進

運動発表会やペース走の公開、なわとび月間は実施できたが、水泳指導、運動会、マラソン記録会、学校での歯磨きなど計画していた多くのことが実践できなかった。その結果、体力の低下が顕著になっている。年間を通して体力向上を図れるよう体育授業の改善、休み時間の活用を工夫していく。

#### 4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R2	R3	R4	R5	R6
1	学力向上アクションプランによる学習内容の定着	○	○	○	○	○
2	豊かな心の育成	○	○	○	○	○
3	健康・体力の保持増進	○	○	○	○	○
4						

#### 5 令和4年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
基礎基本の確実な定着		4年度の目標通過率80% 定着テスト 70%				自己評価の際に記入			
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象・実施教科	頻度・実施時期	具体的な取組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 新規	朝学習 (パワーアップタイム)	全学年 国語 算数	毎週 火・木曜日 始業前 10分	【指導者体制】担任 【取組のねらい・目的】 学習内容の復習・確認を行う。 【使用教材】国語、算数のAIドリル	国語、算数ともにワークテストを活用して、児童の達成状況を確認する。	ワークテストの個人平均正答率70%を90%以上(年2回、学期末)	自己評価の際に記入		

2 継続	補充教室	全学年 国語 算数	・放課後 毎週 月・金曜 日 全員会 議の時 を除く	【指導者体制】担任・管理職・専科 【取組のねらい・目的】 つまずきを克服したり、その日に学習した内容をふり返ったりして基礎的・基本的な学力の定着を目指して、少人数で指導を行う。 【使用教材】文章読解、言語事項、漢字、計算等のプリント、A Iドリル	国語、算数ともにワークテストやワークシートを活用して、児童の達成状況を確認する。	ワークテストの個人平均正答率70%を90%以上 (年2回、学期末)	自己評価の際に記入
3 継続	サマースクール	全学年 各学年約 10名程度 国語 算数	夏休み 期間中 の10日 各日50 分(前期 8日、後 期2日)	【指導者体制】 担任+管理職・専科 【取組のねらい・目的】 下学年にさかのぼって、つまずきを解消する。また、夏休み前までの授業内容の定着をねらい、個別指導を行いながら宿題を行う。 【使用教材】ベーシックドリル、計算プリント、A Iドリル	A Iドリルや夏休み終了後ベーシックドリルで前学年の学習内容についての確認テストを行う。	算数はベーシックドリルを行い、平均正答率70%以上の結果を出す。	
4 継続	家庭学習強化	全学年 国語 算数 その他	年3回 6月 10月 1月	【取組のねらい・目的】 家庭学習の手引きを4月当初に保護者に配布説明する。 家庭学習強化週間3回実施し、家庭学習の実践と家庭への啓発を図る。	家庭学習状況調査を行う。	10分×学年の達成率90%以上の結果を出す。	
5 継続	校内研究の充実	全教員 国語	年7回 の研究 授業	【取組のねらい・目的】 教員の授業力向上を図る。	研究授業の実施回数	各学年1回年間7回の研究授業	

6 継続	小中連携による授業力の向上	全教員 全教科	年5回	共通のテーマをもとに授業力を公開し、協議することで向上を図り、児童の学力向上につなげる。	公開授業の実施回数	小学校3回 中学校2回	<b>自己評価の際に記入</b>
7 継続	I C T の活用	全教員 全教科	通年	【取組のねらい・目的】 足立区I C T教育推進基本方針の実施。・分かりやすい授業・I C Tの活用	授業観察作品	3年生以上授業でネット検索・高学年でプレゼンの実施	

<b>重点的な取組事項－2</b>		豊かな心の育成					
<b>A 今年度の成果目標</b>		<b>達成基準</b>		<b>実施結果</b>		<b>コメント・課題</b>	<b>達成度</b>
自分のよさを自覚し、自他ともに尊重し合う行動様式を身に付ける。		区学力調査の質問項目「自分には良いところがある」で70%以上。 校内調査で「自他を大切にしている」90%以上。		<b>自己評価の際に記入</b>			
<b>B 目標実現に向けた取組み</b>							
<b>項目</b>	<b>達成基準</b>	<b>具体的な方策</b>		<b>実施結果</b>		<b>コメント・課題</b>	<b>達成度</b>
豊かな心を育む読書活動の充実	年間を通して読書マラソンに取り組む。 目標を60%が達成する。(1月末) ・50冊または10,000ページ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・春と秋に読書旬間を実施する。</li> <li>・担任・図書ボランティア等による読み聞かせを実施する。</li> <li>・図書館との連携を図る。</li> </ul>		<b>自己評価の際に記入</b>			
自己肯定感の育成 思いやりの心の育成	「かみきそあじ」調査調 で 自己肯定感に関するアンケート項目で80% 自他の尊重で90%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・hyper-QUアンケートの分析と校内体制で支援を行う。</li> <li>・全教職員による「ほめ育て」の実践</li> <li>・体験的学習の実践</li> <li>・ボランティア活動の実践</li> </ul>					

命をつなぐ千住ネギの栽培活動	・4年生が年間を通して、千住ネギを栽培し、種を次年度の4年生に引き継ぐ。	・千住ネギ栽培を引き継ぐ意義を理解させる。 ・花壇ボランティアや農業委員の力を借りながら1年を通して栽培を行う。	自己評価の際に記入
----------------	--------------------------------------	---	-----------

<b>重点的な取組事項－3</b>	健康・体力の保持増進
-------------------	------------

A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
生活習慣の定着と体力の向上	生活振り返り週間の調査・結果周知を2回行う。 体力テストの都平均を前回(14)よりも多くの種目・学年・男女で上回る。	自己評価の際に記入		

<b>B 目標実現に向けた取組み</b>
----------------------

項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
体力の向上 (特に投力)	体力テストで一昨年よりも多い種目・学年・男女で都平均を上回る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・投力を高める運動を毎時間の学習過程に組み込む。</li> <li>・業間体育(マラソン、短なわ)の実施。</li> <li>・運動の日常化</li> </ul>	自己評価の際に記入		
基本的な生活習慣の定着 (特に挨拶・整理整頓)	小中連携校で共通実践「かみきそあじ」(家庭学習・身に付けるもの・聞き方・掃除・挨拶・時間を守る)調査で85%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年3回の生活振り返りの実施</li> <li>・毎日の挨拶運動</li> <li>・児童朝会での啓発</li> <li>・調査結果の提示</li> </ul>			
保健衛生指導の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・虫歯罹患率15%未満</li> <li>・虫歯未治療率30%以下(年度末)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歯みがき指導の実施</li> <li>・継続した虫歯治療勧告。</li> <li>・ポスターコンクールへの参加。</li> <li>・年間を通じた手洗いの励行</li> </ul>			